

みんなの 気もち♡

所属	名古屋市立浮野小学校	実践者	高井 菜穂子
対象	小学1年生	時間数	6時間＋日常実践
場所	教室	実践教科	道徳、学活
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な人や文化の存在を知り、相手を肯定的に受け止めることができるようになる。 ・ 価値観や文化の同一性や多様性を知り、相手の気持ちを考えることができるようになる。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	◆相手のことを知る 「ともだちってなんだろう」 絵本『ともだちや』の読み聞かせを聞き、主人公の気持ちを考える。その後「友達との思い出」の絵を描き、その時の自分の気持ちを振り返ることで、友達とは大切な存在であるということに気付く。	絵本『ともだちや』 
	2	「ガーナのことをしよう！」 ガーナの写真や動画、クイズなど、パワーポイントにまとめたものを見て、教師が体験してきたガーナの概要を知る。	よいところ見つけの表 
	3	「ともだちのことをしよう！」 2人組になりお互いの自己紹介を行う。その後、グループになり、自己紹介をし合った子の他己紹介をグループ内で行う。	絵本『ともだち』 『くれよんのくろくん』 
	4	◆肯定的に受け止める 「ともだちのよいところをみつけよう！」 毎日の帰りの会で「友達の良いところ見つけ」行い、日常的に友達の良いところに目を向けるようにする。発表した良いところは、教師が付箋に書いて表に貼り、教室に掲示する。活動の最初や途中で、絵本の読み聞かせを行う。	ガーナのもの 
	5	◆違いに気付く 「ガーナと日本のちがいをみつけよう！」 前時までの学習で知ったガーナを振り返り、ガーナと日本の同じところや違うところを考えて対比表にまとめる。違うところも同じところもあるということに気付き、違いがあるからおもしろいということに気付く	対比表 
	6	「みんなの気もち♡(友達と自分の違いに気付こう)」 二つの表情の顔に色を塗ったり、「おいしそうなケーキ」を描いたりする。同じテーマでも塗る色や描く絵が違うことがあるということに気付くことで、人の考え方や感じ方はそれぞれの違い、違っていても良いのだということを感じる。	
成果	ガーナの話聞き異文化に興味をもった児童が多かった。ガーナと日本を比べる場面では、それぞれの違いに気付き「違うところがたくさんあるけど良い」「そのほうが面白い」という意見が児童からあがり、文化の多様性を認めることができていた。児童にとって身近な存在である友達をキーワードに実践を進めたことで、相手のことに関心をもつようになり、さらに相手のことを温かい心で肯定的に受け止めることができるようになった。		
課題	「友達と自分の違い」と「日本と外国の違い」を結び付けて捉えることができるようにしたかったが、1年生の学齡的に少し難しかったように思う。友達と自分の違いは、漠然とわかっている児童はいるものの、実感し気付くところまではできなかった。実践だけではなく日常的な声掛けで、継続して指導していくことが大事だと感じた。		
備考	NPO 星槎教育研究所・NPO 日本標準教育研究所『U-SST ソーシャルスキルワーク』		

[授業実践の詳細]

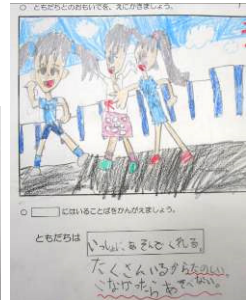
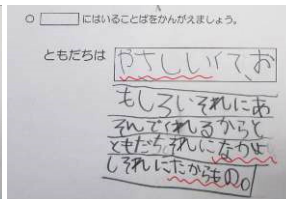
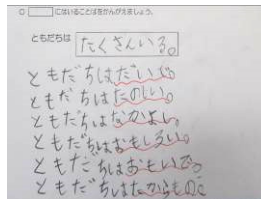
1 時限目 「ともだちってなんだろう」

1 子どもの活動の流れ

- ① 自分にとって「友達」とは何なのか考える。
- ② 絵本『ともだちや』の読み聞かせを聞き、主人公がスキップをしたときの気持ちを考える。
- ③ 友達との思い出を想起し、絵に表す。
- ④ 友達との思い出を想起しているときの自分の気持ちを振り返る。また、もし友達がいなければどんな気持ちになるのか考える。そして、それぞれの気持ちに近いものを表情カードから選ぶ。
- ⑤ 「ともだちは []」の [] に入る言葉を考え、発表する。

この時限のねらい

自分にとって友達は大切な存在であることに気付くことができる。



2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 友達との思い出を描く場面の感想では、多くの児童が笑顔の表情カードを選び、友達は自分にとって良い存在であることを実感できていた。中には、違う小学校に入学したために離れてしまった友達との思い出を描き、「離れちゃったから」と、悲しい顔をした表情カードを選ぶ児童もいた。
- ◇ 「ともだちは []」の [] に入る言葉を考える場面では、「ともだちはたからもの」と書く児童もいたが、語彙の少ない1年生の児童にとって、言語表現をするのは少々難しそうだった。
- ◇ 自分の友達の存在に気付き、友達との楽しい思い出を想起することによって、友達に対して良いイメージをもつことができた。
- ◇ 実践後、友達に「僕たちは友達だよ。」と相手の子に話す児童がいたり、友達に対して温かい言葉をかけたりしている児童の様子を見かけることが多くなった。

3 使用した教材

- <教材1> 内田麟太郎 作/降矢なな 絵『ともだちや』
偕成社 1998
- <教材2> 表情カード(にこにこ・ふつう・かなしい・ぷんぷん)



2 時限目 「ガーナのことをしよう！」

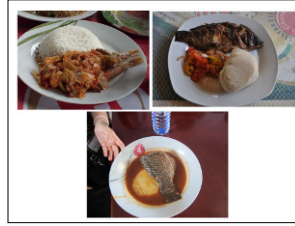
1 子どもの活動の流れ

- ① ガーナの写真や動画をまとめたパワーポイントを見て、教師が体験したガーナの概要を知る。(主に食べ物、人について)
- ② 写真や動画の間にあるガーナクイズを解き、ガーナについて知る意欲を高める。

この時限のねらい

外国の様子について興味をもち、意欲的に知ろうとすることができる。

- ③ ガーナのチョコレート工場で作られたチョコレートを食べて、ガーナを少しだけ体感する。



なにで食べるでしょう？

- ① スプーンとフォーク
② はし
③ て

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ ほとんどの児童が初めて知るガーナという国に、興味をもち、目を輝かせながら写真や動画を見ていた。また、クイズにも意欲的に参加していた。
- ◇ ガーナのチョコレートを食べた児童は口々に「すっぱい！」と声を上げており、日本のチョコレートとの違いを感じていた様子だった。実践後、日本の「ガーナチョコレート」を買ってもらって食べた、という報告をしてくれる児童もいた。
- ◇ 児童は、写真や動画で見たことを後々まで細かく記憶しており、また、「もう一回見たい！」「ガーナの授業やって！」と言う児童や、「昨日テレビで〇〇の国のことをやってた！」と言う児童も多くいた。また、紹介したこと以外にも知りたいことを尋ねてきたり、外国の様子について知っていることを積極的に話したりしている児童もいた。雨の日のカード遊び用に教室に置いてある国旗カードで意欲的に遊ぶようになった様子も見られ、多くの児童が異文化に興味・関心をもつことができたといえる。

3 使用した教材

- <教材3> ガーナの写真や動画、クイズをまとめたパワーポイント資料
<教材4> ガーナのチョコレート

3 時限目「ともだちのことをしよう！」

1 子どもの活動の流れ

- ① 前時ではガーナについて知ったが、本時ではもっと近くにいる人「友達」について知ることを知る。
- ② 自己紹介カードに自分のことを記入し、2人組で自己紹介を行う。
- ③ 4人(6人)グループになり、自己紹介し合った友達を、グループの児童に紹介する(他己紹介)。自己紹介カードは、紹介する友達同士で交換しておく。
- ④ 活動の感想を書き共有する。

この時限のねらい

友達に興味をもち、友達の話を聞いたり友達のことを紹介したりして、友達についてよく知ろうとしている。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 自分のことについて、意欲的にカードを書くことができた。
- ◇ 実践後の感想で、「〇〇ちゃんと好きな本が同じでうれしかった。」や「〇〇くんの将来の夢を聞いてすごいと思った。」「夢が叶ってほしいと思った。」などが聞かれ、友達の紹介を温かい気持ちで聞くことができていた。
- ◇ 実践後、温かい感想が見られる中、「緊張しました。」という感想も多く見られた。他己紹介で、グループに対して発表することに緊張してしまい、児童の意識が発表することに向いてしまったと考えられる。もっと友達のパーソナリティーに興味をもって紹介を聞くことができるよう工夫が必要である。

3 使用した教材

- <教材5> 自己紹介カード

4 時限目「ガーナをたいけんしよう！」

1 子どもの活動の流れ

- ① 2時限目で学習したガーナのことについてパワーポイント資料を見ながら振り返る。
- ② 教師がガーナで買ってきたものの紹介を聞く。
- ③ ガーナの物に実際に触ってみる。(ガーナの物は実践後、常時教室に置いておいた)
- ④ 感想の共有を行う。

この時限のねらい

外国の文化について、おもしろいと感じ、肯定的に受け止めることができる。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ パワーポイント資料の振り返りでは、見るのが2回目であるにもかかわらず、児童は興味津々に写真や映像を見ていた。
- ◇ ガーナの服を見た児童は、「柄がかわいい！」と、アフリカ独特の柄に興味をもっていた。
- ◇ パワーポイントやガーナの物を見て、たくさんの児童が日本との違いを感じていると同時に、「たのしそう」という感想が聞かれ、外国の文化について、肯定的に受け止めることができている様子が見られた。
- ◇ 楽器に興味を示す児童が多く、休み時間に太鼓を叩き、そのリズムに合わせて歌を歌う姿が見られた。アサラトというマラカスのような楽器は、演奏方法が少し難しかったが、毎日練習をして音を出すことができるようになった児童もいた。



髪型や服の柄が日本とはちがうよ！！

<ガーナのを体験する子どもたち>

3 使用した教材

<教材3> ガーナの写真や動画、クイズをまとめたパワーポイント資料

<教材6> ガーナの物(太鼓、アサラト、服、雑誌、シアバター、アクセサリ)

5 時限目「ガーナと日本のちがいをみつけよう！」

1 子どもの活動の流れ

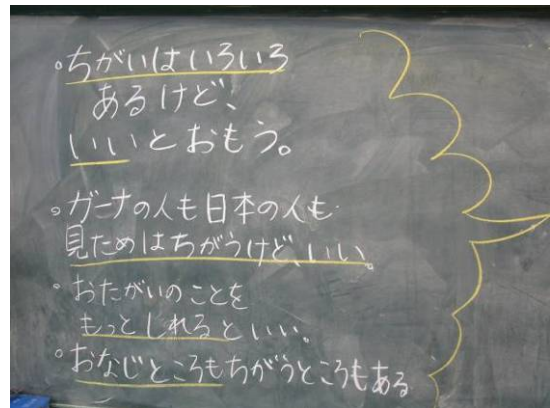
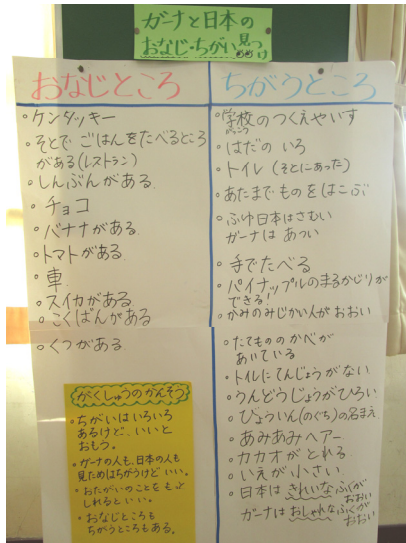
- ① パワーポイントやガーナの物を見たことを振り返り、日本とガーナの同じところや違うところを考えることを知る。
- ② 今までの学習で気付いた、日本とガーナの同じところや違うところを発表し、対比表を完成させる。
- ③ 学習の感想を発表する。

この時限のねらい

外国と日本の様子の違いに気づき、肯定的に受け止めるできている。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 予想よりも多くの意見が児童から上がった。写真で見た、小学校の建物やグラウンドの様子の違いや、町の人の様子の違いなどに気付いていた。
- ◇ 同じところが上がりにくかったので、「同じところはどんなところがあった?」と問いかけると、ファストフード店や果物のことなどが多く上がった。
- ◇ 学習の感想では、児童から「違うところはいろいろあるけど、良いと思う。」という意見が出た。他には、「同じところも違うところもある。」「日本の人はガーナのことをあまり知らないから、ガーナの人も日本のことを知らないと思う。だからもっと知れると良いと思う。」という感想が上がり、児童は違いを肯定的に受け入れることができていた。



6 時限目「みんなの気持ち♡」

1 子どもの活動の流れ

- ① 人にはいろいろな気持ちがあることに気付く。
 - (1) 知っている気持ちを発表する。
 - (2) どんな時にどんな気持ちになるのかを考え、絵と気持ちを線で結ぶ。
 - (3) どんな時に楽しい気持ちになるのかを考え、絵の中から楽しい気持ちの子どもを選ぶ。
- ② 友達と自分の考え方や感じ方が違うということに気付く。
 - (1) うれしそうな顔と悲しそうな顔に色を塗る。
 - (2) 「おいしそうなケーキ」というテーマで絵を描き、発表する。
- ③ 学習の振り返りと感想の共有を行う。

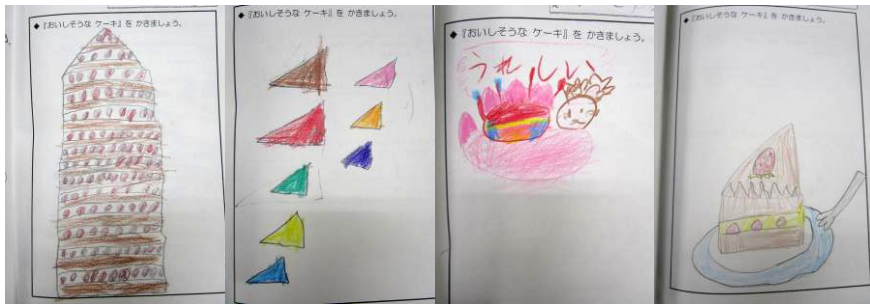
この時限のねらい

友達と自分の考え方や感じ方の違いに気づき、肯定的に受け止めることができています。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 児童は楽しそうに活動に取り組んでいた。
- ◇ うれしそうな顔と悲しそうな顔に色を塗る場面では、うれしそうな顔には暖色系の色、悲しそうな顔には寒色系の色を塗る児童が多かったが、中には顔に模様を付ける児童がいたり、うれしそうな顔に青を塗る児童と悲しそうな顔に青を塗る児童がいたりして、様々な反応が見られた。

- ◇ おいしそうなケーキを描く場面では、「みんなの“おいしそう”を見てみましょう。」という声掛けに、「楽しみだな。」と活動へ期待感を持って取り組むことができている様子だった。
- ◇ 描いたケーキの発表では、どの児童のケーキにも「おいしそう！」と声を上げており、友達の意見を肯定的に受け止めることができている。
- ◇ 児童の感想には、「いろいろな気持ちがわかった」「みんなの気持ちはちがうんだね」「気持ちはいろいろあることがわかったし、おいしいケーキもいろいろあった」「みんなの気もちや好きなものがちがうことがわかりました」というものがあり、友達と自分との違いに気付き、肯定的に受け止めることができている児童がいる反面、色を塗ったり絵を描いたりする活動が楽しかったという感想に留まる児童や、「ガーナと日本が違って良いように、自分と友達が違って良い」ということについて言及したところで難しいと感じてしまった児童もあり、ねらいが学齢に見合ったものであったか、検討が必要であった。



＜児童が描いた様々な「おいしそうケーキ」＞

3 使用した教材

＜教材7＞ NPO 星槎教育研究所・NPO 日本標準教育研究所
『U-SST ソーシャルスキルワーク』



＜うれしそうな顔と悲しそうな顔の絵＞

■ 全体を通して

1 授業の様子



＜友だちとの思い出を描く様子＞



＜ガーナの写真に興味を示す子ども＞



＜ガーナの物を体験する様子＞



＜うれしそうな顔と悲しそうな顔に色を塗る様子＞

本実践では、外国の文化に興味をもち受け入れることを、どれだけ子どもたちにとって身近なことに落とし込むことができるかということ、また、対象学年が小学校1年生であったため、子どもたちが無理なく楽しく活動できることを意識して、プログラム作りを行った。実践全体を通して、絵を描いたり色を塗ったりする活動や、クイズなどを取り入れることによって、子どもたちは楽しく活動に取り組むことができていた。また、ガーナの写真や動画、物に触れることによって、外国の文化に興味をもち、日本との違いをおもしろいと感じ、受け入れることができていた。そして、子どもたちにとって身近な、友達に焦点を当てた活動によって、友達のことを肯定的に受け止める温かい心を育むことができた。しかし、自分の思いを发表或し、外国と日本の違いと友達と自分の違いを結び付けて考えたりすることは、学齡的に難しいところがあり、ねらいやプログラムに見直しが必要である。

小学校1年生における開発教育は、無理なく楽しく取り組めるものであること、そして継続的な働きかけをすることが大切であることを実感した。今後も、日常実践や日頃の声掛けなど、継続的な働きかけを続け、より気付きを高めていけるようにしたい。

2 参考文献・資料

- 1) 内田麟太郎 作／降矢なな 絵『ともだちや』 偕成社 1998
- 2) NPO星槎教育研究所・NPO日本標準教育研究所『U-SST ソーシャルスキルワーク』